

2022年冬 TC 技術検定 2級使用情報制作ディレクション[DR]実技試験の出題意図

ディレクション試験の実技問題は、「安全表記」、「企画書作成」、「制作の判断」、「構成」の4課題が出題された。問題形式は、従来どおり、計算、選択式、記述と揃っていたが、難易度の異なる課題が取り混ぜて出題されているので、時間の配分に注意が必要である。また、学科問題では出題できない応用力が問われているので、記憶力ではなく実務経験が必要なものばかりである。

【課題1】

ウォーターサーバーに添付する取扱説明書が題材。リスクアセスメントを行った結果の安全表記を、警告図記号とともに記載すること、予測されるリスクから警告文を執筆ルールに従って記述することが各設問である。安全表記に関する記号や規格について、必要な内容は定時されているので、書き方の指示を間違えなければ解答できる。

【課題2】

ペット用自動給餌器の新製品に追加される機能が題材。題材製品に対する様々な情報を収集し、それらを分類することと、新製品の取扱説明書に説明が必要となるものを選別することが各設問である。収集された情報の表現をよく読むことで、分類や追加説明の可否は解答できる。

【課題3】

公開講座で使用するテキスト冊子の更新に関する作業日程が題材。従来の冊子を再利用しながら、新たに制作する項目の順番を確認し、日程表を完成させることが問題である。日程表といっても、問題文にはガントチャートで書かれているが、解答は日数の数字を記述する。計算間違いがなければ解答できる。

【課題4】

キッチン家電の Web マニュアルの改善が題材。現在の Web マニュアルの概要と、改善を検討したメモ、上長からの方針、検討内容の調査報告などに従い、2つの方式の比較表を完成すること、採用した方式についての理由を記述することが、各設問である。それぞれの情報が多く問題用紙2ページにわたり、Web や電子媒体の知識が必要で難しく感じる。しかし、それぞれの情報を関連づけることで、解答できる。

2022年冬 TC 技術検定2級使用情報制作実務[MP] 実技試験の出題意図

制作実務試験の実技は、例年通り「目次構成」「校正」「イラスト項番」「図とライティング」の4課題で、どれも実務的な出題であった。問題形式は、ライティングだけでなく、表示内容の変遷、図の項番と引き出し線のつけ方など、制作実務に欠かせないスキルが含まれていた。題材は時計など定番のものから、Web サービスまで幅広く取り上げられている。

【課題1】

クラウドストレージサービスの冊子説明書を Web に掲載することが題材。「冊子の目次と、Web コンテンツの構成を比較し、掲載方針に従って見出しを作成することと、検索向上のためのキーワード設定が、各設問である。見出しも、キーワード設定も、Web の特性が理解できていれば解答できる。

【課題2】

モバイルプロジェクターの取扱説明書に掲載する図版が題材。平面図を立体図にし、その各部名称に項番をふり、並びが条件に合うように指示すること、立体図を横並びから縦並びにしたときに項番への引き出し線を描くことが、各設問である。単純に項番を振っても、順番にならないはずなので、入れ替える番号に気づけば解答できる。また、引き出し線は、曲げる箇所や接続点、交差点などを注意すれば、短い線なので定規がなくてもフリーハンドで描ける。

【課題3】

社員の健康意識の向上を目的としたプログラムに関する社内文書の校正が題材。執筆ルール、校正の方針と、変更点があるので、それらを合わせて、元原稿で指示すべき箇所を探す。内容に惑わされず、普段の業務上の注意力があれば解答できる。

【課題4】

AC 電源を使ったラジオリモコン付き目覚まし時計が題材。以前に出題された内容の改題である。画面の表示形式、画面インターフェイスの仕様、機器のボタンの仕様から、指定された設定にする手順を記述する。それぞれの仕様の文章量が多いので、すべて読む前に、指定された設定を理解し、必要な箇所を拾いながら、全体を理解すると解答できる。画面遷移と説明文の両方を、執筆ルールに従って、マス目に記述するため、手間はかかる。